



つなぐ

近くにある市民活動

市民活動のひとつとして、自分たちの暮らしや命は自分たちで守ることを目的とした自主防災活動があります。そして自主防災の中心的な役割を担っているのが、自治会を中心とした自主防災組織です。災害時に私たちが身を寄せる避難所も中心となって開設・運営するのは自主防災組織です。地震や台風などの大きな災害が増えてきている今、その存在はますます重要になってきています。また、誰にとっても身近で必要とされる「自主防災活動」は地域のつながりを強くする一面もあります。

浦安市内にも82の自主防災組織があり、それぞれに地域特性を踏まえて活動しています。その活動の様子を元町地区と中町地区の自主防災組織の方にお伺いしました。

自治会を越えて広くつながる防災活動

塩谷 祐司さん（富士見3丁目自治会長）

<該当自治会> 富士見・富士見2丁目・3丁目・堀江橋各自治会

▶世帯数:7,924世帯 ▶人口:14,300人（令和元年12月31日現在）



▲「消防署を招いての消火訓練」家族揃って参加。もしもの時に備えます。

「マニュアルを見ているだけでは、いざという時に役立たない」と4年前から毎年2月に堀江中学校を避難所としている4自治会合同の避難訓練を実施しています。災害があって住民が体育館に避難してくる設定で、避難所開設時の受付、誘導、仮設トイレの設置などの訓練を行います。それ以外にも煙体験、防災倉庫の内容確認、災害に対する知識や心構えの講話も実施。また、より実践力を高めるために参加者を班分けし、班ごとに災害時に想定される課題を割り振り、その課題をメンバーで協力して解決するプログラムも実施しています。

「避難所に来れば行政など誰かが面倒をみてくれる」といったお客様になるのではなく、「自分たちで運営する」に意識を変えてもらうのが一番の目的です。高齢者や障がい者のいる世帯など要支援世帯の担当も決め、災害時にはサポートできる態勢も整えています。

このような活動を円滑に効果的に行うには普段からの地域住民のつながりが大切です。私たちの地域では4つの自治会が夏祭りに行き来するなど交流しており、顔見知りも多いです。子ども達の育成活動にも地域の自治会が協力して取り組み、結束力は高いと思います。

私自身も50代に自治会長を引き受け、仕事も忙しい時期だったので、ずいぶん周囲に助けられました。その時にできた地域のつながりは現在の活動のベースにもなっています。

今後の課題は新しい参加者を増やすことです。最近建ったマンションの自治会の入会率は低く、様々な地域の情報が届きにくいです。地域に関心を持つ住民が多いということは地域の安全にもつながります。まずはお祭りなど楽しいイベントから地域デビューしてもらえればと思います。

防災はコミュニケーション

西原 知文さん（入船西エステート 自主防災組織事務局）

<該当自治会> 入船西エステート自治会

▶世帯数:800世帯 ▶人口:1,896人（令和元年12月31日現在）



▲「防災訓練朝礼」班ごとに整列。心地よい緊張感が漂う。

自治会の防災活動をサポートするために1996年に自主防災組織が発足しました。事務局を置いて、年間計画作成や防災訓練の実施運営、住民に向けての啓発活動に取り組んでいます。

11月の防災の日には実践的なトレーニングの「防災訓練」と防災に関心を持ってもらうための「防災フェア」の2つを実施して住民の防災意識を高めています。

自主防災組織の合言葉は「集まった人の数で、できることをやる」。そのために本当に必要なサポートは何かを考え、その時々訓練の内容も更新しています。例えば、がれきの中からの救助訓練は、マンションではそういった事態は考えにくいということで、取り止めました。安否確認訓練では全戸を回るルートを見直し、限られた人数でも短時間に完了できるように試みています。また、住民に防災アンケートを実施し、災害時の備蓄や知識などがどれ位あるかを年代別に把握しています。その結果を参考に自助が可能な住民には普段の備えの手伝いを、自助が難しい住民には災害時のサポートを行います。

これらの防災活動を効果的にすすめることができるのは「防災はコミュニケーション」をスローガンに取り組んでいるからです。自治会の集まりでも、たびたび防災の啓発活動を行い、住民間で備えの大切さを共有しています。

防災の知識があるかどうかは災害時の被害の大きさを左右します。「知り合う⇒知らせる⇒情報を知ってる」のように多くの人に情報を伝えるためにもコミュニケーションは大切です。

今後は次の事務局を引き継いでもらえる40代・50代の方ともつながりを作りつつ、コミュニケーションを大切に防災活動を続けていきたいと思います。

訪問レポート

日の出中学校 『働クエスト』

2019年11月30日、1年生を対象にキャリア教育の一環として開催された「働クエスト」は今年で9回目。まず、生徒たちは18の職業の中から関心のあるものを選び、少人数のグループに分かれ講師が待つ教室へ。講師を引き受けるのは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の技術者やアニメーションディレクター、俳優、警察官、シェフなど多岐にわたる職業の方々。講師からは「どんなことをやっているか、なぜその職業を選んだのか」など具体的な話があり、さらに、働くときに意識していることや目標を定めることの大切さなども伝えられました。直接、話を聞くことで、働くことのイメージだけでなく自身の長所や興味に気づき、将来の目標を持つきっかけにつなげることを目的としています。



▲「働クエスト」はじめの会



▲ 職業：技術者（航空宇宙開発事業）

生徒からの質問で多かった「仕事で心がけていること」に対して、職業の違いはさておき多くの講師が口にしたのは「仕事を楽しみ、好きでいること」。それが根底にあるからこそ、辛いことや多忙な時期を乗り越えているという共通点がありました。また「子どもの頃の夢や意識していたこと」、「高校での勉強は現在の仕事に関係あるのか」を気にかける生徒たちも多く見受けられました。

JAXAの技術者は、「子どもの頃はパイロットやオリンピック選手などに憧れていたが、高校生頃からは宇宙と技術をかけ合わせた仕事に的を絞った」と話し、目標を定めることの重要性を伝えました。そのためにはまず「1年先のことや、理想の大人像といった仕事に直接関係ないと思うことも日頃からイメージすることが大切」と語りました。

憧れの職業の講師を目の当たりにし、熱心に耳を傾けてメモを取り、具体的な仕事内容についても積極的に質問する生徒たち。漠然と描いている夢を具体的な目標にするためのヒントを得たり、好きなことを見つめ直したりする良い機会となったようです。生徒たちの“これから”に期待し、心からエールを送りたい！ そんな思いに駆られる「働クエスト」でした。

INTERVIEW

「楽しいから子どもが卒業しても協力したい・・・」

日の出中学校サポーターズクラブの取り組みを紹介します

学校と保護者との連携により実現した「働クエスト」。多彩なプログラム、当日の円滑な運営のためには、本番を迎えるまでの念入りな準備は欠かせません。一見、「大変なこと」のように思える活動を「楽しいこと」に変えてしまう、その秘訣や思いについて、中心メンバーの金森崇さん(写真右)、牧野功さん(写真左)にお話を伺いました。



— まずはおふたりの自己紹介、役割やきっかけについてお話しください

金森 日の出中学校サポーターズクラブ(以下、サポーターズクラブ)の代表をしています。今年で2年目。娘が日の出小学校に入学したときからお父さんの会に関わっていました。日の出南小のおやじの会とも交流があり、その関係で自然とサポーターズクラブに携わりはじめました。

牧野 サポーターズクラブの事務局をしています。日の出南小学校のおやじの会にも入っています。子どもはもう成人していますので、保護者OBになりますが、ずっと継続して参加しています。先生方もお忙しいので、何かサポートできることはないかと思い、中学校の掃除やグラウンドの水まきなど、とにかく、できることからはじめました。

— ご自身の意思ではじめられた活動なのですね

牧野 はい。小学校のおやじの会により生まれた交流が、中学校になるとなくなるのがもったいないと思い、サポーターズクラブをはじめました。活動メニューは防犯活動、清掃活動、先生方との交流などがあり、キャリア教育支援「働クエスト」は平成23年からはじめました。

— キャリア教育はもともとどのような内容ではじまったのでしょうか

金森 特徴的なことは、授業の進行や内容がサポーターズクラブの提案ではじまったこと。学校の総合的な学習の時間に行っています。毎年学年の方針を伺い、学年主任の先生と方向性をすり合わせたうえで、準備はこちらで進めています。今年からは、子どもたちにあらかじめアンケートをとり、どのような職業に興味があるかを把握するようにしました。

— 今年のキャリア支援「働クエスト」はいかがでしたか

金森 今年は19人の講師、18ブースを用意しました。子どもたちの興味のある職種として、去年はYouTuber、スポーツ選手としてフットサル選手、今年はラグビー選手に来ていただきました。

— 大変なことはありますか

牧野 楽しくやっているので大変だと思うことはないですね。毎月1回はミーティングを行って、「今年の方針」を毎年リセットして話し合っています。事務局にとっても新鮮な企画にしないと、ただの作業になってしまうので、自分たちが楽しくないとダメだと考えています。

金森 誰かに強制されてやっているものではないので、自分自身としては楽しいんです。傍から見ると大変だねと言われますけどね。5月に顔合わせ、6月に方針を決めて7月に講師の職業候補を決め、9月上旬くらいまでに講師を決めるというスケジュールで進めています。

— 講師の方をお願いする時に何かルールなどありますか

金森 全体の進め方、授業時間50分の時間配分をお願いしています。それ以外は講師にお任せです。今年は実際にシェフの方には料理を作っていました。

牧野 「情熱をもってお話ください」ともお伝えしています。みなさん、プロなので仕事に対する情熱があるはず。それを生徒にぶつけてくださいとお願いしています。子どもたちが目覚めるようなこと、10、20年後にその話を思い出してくれば成功だと伝え続けています。その結果、最近の講師は素晴らしい人材が集まるようになってきました。「講師に選ばれる」ということは「すばらしいこと」という印象が変わってきました。

金森 なぜその職業を選んだのか、話してもらっているので、講師にとっても中学生の頃から今までの自分を振り返る機会になります。それがご自身の良い刺激になっているようです。

— サポーターズクラブの新しいメンバーについてお伺いします

金森 在校生の保護者を中心にメンバーになってもらえればと願っておりますが、少子化で生徒数が減っているので、保護者数も減少、地域の方やOB・OGにもっと関わってもらえるようにしたいです。ただ一番難しいのは、OB・OGは浦安に住んでいないこと。そのため、最近では、SNSを利用するなどして、話し合いの工夫をしています。

— 今後の方向性や課題はありますか

金森 キャリア教育支援については今のまま進めたいです。大事なことは、生徒に直接語りかける講師なので、「OB・OG100パーセント！」を目指しています。子どもたちにとっても卒業生の話として聞くと、身近に感じ、将来をイメージしやすいので。

今後は、地域と中学校との連携をもっと進め、自治会など地域の力を活用する必要があると感じています。とはいえ、みなさんボランティアとしてやっていることなので、小さな輪で少しずつ広げていきたいと思っています。

— どうもありがとうございました

「働クエスト」当日は、生徒たちに交じって、揃いのTシャツを着こんだサポーターズクラブのメンバーが、楽しく、いきいきと活動されている様子が大変印象的でした。学校を中心に地域の人たちが集まり、協力し合った結果が子どものより良い成長につながる・・・、とても素晴らしいことです。子どもたちのため、学校のため、忙しく働く先生たちのためにと頑張っている保護者や卒業生の姿を生徒たちはしっかり見ているのではないのでしょうか。

春だね

ボランティア はじめの一步は「ちょいボラ」から

※ちょいボラ：身近なことでできる「ちょっとしたボランティア」のこと

春は節目の季節。「子育てが一段落したから」「定年を迎えて次のステップへ」など、「何か新しいことを、役に立つことをはじめたい」、そんな気持ちになる季節かもしれません。ボランティア活動は、人とつながる、地域とつながるための大切な要素のひとつ。

でも、一方で「とにかく忙しくて時間がない!」とか「何だか、面倒くさそう…」、そんなイメージがあるのも事実。

そこで、みなさんにお勧めしたいのが「ちょいボラ」。時間の制約を受けず、約束事も少ない、気負わずに「できる時にやれることを!」、それがちょいボラのポイントです。

たとえば…

- ・おさんぼの途中で見つけたごみを拾う
- ・困っている様子の人を見かけたら声をかけてみる
- ・書き損じはがきや不用な衣類・本などを市民活動団体に寄付する

「身近、気軽」を合い言葉に、「ちょっとボランティア」してみませんか!



▲ ボランティアをやってみたくと思ったらお気軽にご相談下さい

市民活動センターは、どなたでもご利用いただける施設。(登録団体限定の備品、会議室利用もあります)

定例のボランティア活動をはじめ、さまざまな活動をご紹介します。また、市民活動団体の皆さんが実際にワークショップなど開催していることもあります。お時間のあるときに、ぜひお立ち寄りください。

うらやす市民大学からのお知らせ

うらやす市民大学は、「学び」を「地域に活かす」ため、年間を通した講座を開設しています。

令和2年度の受講生募集について
今年も4月1日から募集を開始します!

■ 募集期間：4月1日(水)~30日(木)

詳細については、広報うらやす 3月15日号、HP等でお知らせする予定です。

HPは検索サイト等で「うらやす市民大学」と入力してください。

※都合により予定を変更する場合があります。
あらかじめご了承ください。

問い合わせ

浦安市市民大学校

TEL：047-351-4811

E-mail：shimindaigaku@city.urayasu.lg.jp

まちプラ春の文化祭

■ 日時：3月22日(日) 10:00~16:00

■ 場所：まちづくり活動プラザ
(浦安市入船5-45-1 旧入船北小学校)



楽しい地域交流イベントを開催します。展示・販売、体験・ワークショップ、映画「世界の果ての通学路」上映のほか救助犬もやってきます。ガラポン抽選会では、ステキな景品も当たります。みなさん ぜひお出かけください!

問い合わせ

まちプラ文化祭実行委員会

TEL：047-713-2811

E-mail：u-machinet@jcom.zaq.ne.jp

編集後記

今回で2回目となる特別号(全戸配布しています)では、特にまちづくり活動として、地域で頑張っている方々をご紹介します。現役を退き、次の活躍の場をまちづくり活動に見つけた方、仕事と地域活動のバランスを上手にとって、お仲間と共に楽しく活動している方、多くの方々で地域は支えられていると実感しました。もっと、もっと地域活動を楽しむ人が増えると良いですね。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2020年2月10日

〒279-8501 千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎1階)
TEL：047-305-1721 / FAX：047-305-1722
E-mail：shiminkc@jcom.home.ne.jp
URL：http://u-shimin.genki365.net